

平成 30 年度

昼間コース

基礎ゼミ
演習指針

長崎大学経済学部

月曜日 - 4 校時開講

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： Celia Umali

課題テーマ	Japan-Asia Relations
内容と方法 Content and Method	<p>The center of global economic gravity has shifted toward Asia and many companies have adopted a 'look east strategy'. In this seminar, we will try to answer the question, 'why Asia'? We will study the economic, business and social environments in Japan and Asia that serve as push and pull factors for this movement.</p> <p>Class discussion, debate, exercises, presentation, video</p>
到達目標 Goal	The objectives of this course are to deepen students understanding of the contemporary Japan-Asian relationship and at the same time improve their English skills.
テキスト	Will be provided later.
成績評価の 方法と基 Evaluation	Exercises/assignments 40% Class participation 40% Attitude/attendance 20%
その他	The seminar will be done entirely in English.
教員連絡先 Contact information	E-mail address : umari@nagasaki-u.ac.jp Laboratory : Main Bldg. Rm.504 Tel : 095-820-6327 Office hours : Monday to Friday , 10am- 4 pm

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 岡田裕正

課題テーマ	英文和訳による会計学の基礎の理解
内容と方法	<p>本基礎ゼミでは、英語で書かれた会計の入門書等を用いて財務会計の基礎を学ぶことを目標とする。</p> <p>したがって、本ゼミで用いる手法は、英文和訳が中心となる。具体的には、毎回、次の時間までに読んでくる範囲を決めて、全員に和訳をしてきてもらい、それを各人が発表する形式をとる。不明な点があれば、討論を通じて、確実な理解に努める。</p> <p>内容としては、会計の基礎概念、貸借対照表（Balance Sheet B/S）と損益計算書（Income Statement I/S）の基礎（それぞれの構成要素など）、損益測定（Income Measurement）等の理解ができるものを考えている。</p> <p>概要については、第1回目に話す。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 会計の基礎に関する幅広い知識を身につけている。 ② 自分の考えを、わかりやすく伝え、討論することができる。 ③ 1年次に学んだ簿記の知識も踏まえて、会計に関する総合的な理解を身につける。
テキスト	適宜、プリントを配布する
成績評価の方法と基準	最終的には、読んだ範囲の全訳をレポートとして提出してもらおう。ゼミに対する積極的取組みや貢献度、レポートや口頭でのプレゼンテーションなどを基に評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC 等のスコアは必要ではないが、本学部の簿記の単位を習得していることを前提とする。 ・ 専門的な英単語の一部は、本学部の簿記で使用したテキストにも掲載されているので、参考にしてもらいたい。ただし、日本語では一つの単語でも、英語では複数の表記があるので、図書館に備置されている会計学辞典やネット等も適宜利用すること。 ・ ゼミを休む場合には必ず連絡をすること。
教員連絡先	h-okada@nagasaki-u.ac.jp

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名：小山久美子

課題テーマ	貿易と社会について歴史から考える
内容と方法	<p>(内容) 貿易は今やわれわれの生活にとって不可欠となっているが、歴史的にみれば世界的な貿易自由化は第二次大戦後になって進められた。そして現在でも国家間には様々な貿易障壁が存在している。</p> <p>貿易自由化はどのように進められてきたのか、そこではどのような議論がなされてきたのかを歴史的に考察していく。</p> <p>本演習では、貿易自由化を主導してきた米国の動向、米国の特徴等を中心に歴史的な考察を行っていく。</p> <p>(方法) 本演習は文献研究型の授業である。文献(書籍や資料、英文も取り上げる)を熟読し、理解して、議論することにより授業を進めていく。</p>
到達目標	経済社会、とりわけ貿易に関する幅広い知識を身につけ、本演習のテーマに関して自分の考えをわかりやすく伝える(話す、書く、議論する等)ことができる。
テキスト	テキスト使用を予定(各自の毎回持参が必要)。 どのテキストを使うかは未定だが、初回授業時に言及する。
成績評価の方法と基準	授業への取組み状況と、課題、レポートの内容を総合的に判断する。
その他	毎回、課題(宿題)有り。授業時間以外にも学習取組み時間が必要。
教員連絡先	

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名：成田 真樹子

課題テーマ	世界経済の諸問題をディベートする
内容と方法	<p>本基礎ゼミは、ディベートを通じて、世界経済の諸問題を理解、考察することを内容とする。ディベートはある命題に対してそれぞれ肯定側・否定側の立場に分かれて討論を行うもので、それによって論理的思考力、分析力、判断能力、プレゼンテーション能力を習得することができる。</p> <p>本ゼミでは、参加人数にもよるが、グループでテーマについてのリサーチや資料収集を通じた議論作りをした上で、実際にディベートの試合を行い、勝敗を決定する。テーマとしては、貿易問題、資源問題、地域統合などを予定している。</p> <p>最初の数回のゼミでディベートの手順、試合のやり方について説明する。</p>
到達目標	<p>①現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけることができる。</p> <p>②自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。</p> <p>③現代経済社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけることができる。</p>
テキスト	テキストは使用しない。参考書については、必要なものがあれば、授業中に指示する。
成績評価の方法と基準	ゼミへの貢献度、ディベートの試合におけるプレゼンテーションの内容とその成果によって総合的に評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none">・基本的にはグループでの活動となる。・ゼミ時間以外の学習を必要とする。
教員連絡先	研究室：東南アジア研究所 319 号室 E-mail：makki@nagasaki-u.ac.jp

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名：深浦厚之

課題テーマ	未知の知識に挑む
内容と方法	<ul style="list-style-type: none">● 「自分に関係ない」「難しいそう」「知らなくても済む」・こういった態度は物事を学ぶ上で最も避けなくてはならない態度です。このゼミではみなさんが（おそらく）これまでに触れたこともない、そしてこれからも触れることがなさそうな事項を用いて、「ゼロから学ぶ」「苦勞して学ぶ」「不得意なことでもやらなくてはならない」ことを体験してもらいます。● 下記のテキストの各章を担当し、教師として他の受講生に講義をするとともに、練習問題を作成します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">● 「ゼロから学ぶ」「苦勞して学ぶ」「不得意なことでもやらなくてはならない」ことを体験する。● 自ら学び、かつ他人に教えることの難しさを体験する。
テキスト	完全独習「ベイズ統計学入門」、小島寛之著、ダイヤモンド社、2015、¥1800
成績評価の方法と基準	ゼミナールへの参加意欲・プレゼンの良否により評価する。
その他	
教員連絡先	afukaura@nagasaki-u.ac.jp

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 松木 佑介

課題テーマ	費用とは何か
内容と方法	<p>内容 ミクロ経済学で学んだように、経済学的に費用を考える際には、会計的に計上される費用だけでなく、機会費用も含めた費用が重要になります。機会費用の考え方について、英文テキストや関連文献により学びます。</p> <p>方法 テキストの輪読が基本となります。必要に応じて関連文献に関するレポートの提出や発表の課題も設定します。</p>
到達目標	<p>資料を読み取り、まとめて、それを解り易く伝えることができる。 経済学の基本知識を身に着ける。 英語文献をある程度読解できる。</p>
テキスト	<p>James M. Buchanan <i>Cost and Choice: An Inquiry in Economic Theory</i>. 下記 URL より無料でダウンロード可能。 http://oll.libertyfund.org/titles/buchanan-cost-and-choice-an-inquiry-in-economic-theory-vol-6-of-the-collected-works</p>
成績評価の方法と基準	<p>プレゼンテーションなど授業への貢献とレポートにより評価する予定。</p>
その他	<p>授業準備に十分時間を割くことが必要となります。経済学と歴史に関心があり、英語の文献に挑戦してみたい学生の参加を歓迎します。なお、数学は用いない予定です。</p>
教員連絡先	<p>研究室：東南アジア研究所 207 Email: ymatsuki@nagasaki-u.ac.jp</p>

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 吉沢 裕典

課題テーマ	問題演習を通じてミクロ経済学を理解する
内容と方法	<p>内容：</p> <p>標準的なミクロ経済学の問題演習を行う。指名された者が担当問題を解いて、他の受講者及び吉沢に向けて問題の解き方について解説を行う。問題演習を通じてミクロ経済学の基礎を理解し、知識の定着を図る。</p> <p>方法：</p> <p>はじめに、受講者には簡単な自己紹介を行ってもらいます（どの程度の時間をとるかは受講者数で調整します）。その後、問題の担当順を抽選します。</p> <p>第2回目からは、指名された担当者が担当箇所について問題を解き、問題の解き方の解説を行ってもらいます。解説方法は板書、レジュメを作成する、プレゼンテーションといったものがありますが、どのような方法を取るかは個々人の自由です。他の受講者は問題解説を単純に聞くだけではなく、適宜担当者の解説に質問し、よりミクロ経済学について理解を深めることが求められます。また、最終回には復習を兼ねて、ミクロ経済学のテストを行います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけている。 ● 自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。 ● 現代経済社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。
テキスト	<p>武隈眞一『演習 ミクロ経済学』第2版（演習新経済学ライブラリ=1）、新世社、2017年。</p> <p>を予定しているが、受講者から希望があれば、それを用いることもある。</p>
成績評価の方法と基準	<p>ゼミへの貢献（60%）、テスト（40%）。なお、出席回数が2/3に達しない者については、成績評価を行わず失格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミへの貢献の詳細 <p>積極的なゼミナール活動への参加、担当問題について詳細に解説を行うこと、関連事項の解説や、担当者への質問状況を鑑みて総合的に評価する。</p>
その他	自己紹介について資料を作成していただいても結構です。
教員連絡先	学務係に問い合わせのこと。

火曜日 - 4 校時開講

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名：大角 道子

課題テーマ	不確実性下の意思決定について
内容と方法	<p>内容 この基礎ゼミでは「不確実性やリスクに直面した人がどのような経済的意思決定を行うのか」について分析するための基礎を学びます。</p> <p>方法 不確実性下の意思決定についてのテキストを輪読します。</p> <p>各章の担当者のすること 担当者は割り当てられた章を事前によく読み、ゼミで発表します。</p> <p>他の参加者のすること 他の参加者も議題となる章の内容について事前に読み、1つ以上の質問を準備します。</p> <p>全員でおこなうこと 担当者の説明の後、各自質問を出し合って議論します。</p>
到達目標	確実性やリスクの下では人々はどのような意思決定を行うのかをよく理解し、分かりやすく他の人に伝えることができるようになること。
テキスト	Gilboa, Itzhak Theory of Decision under Uncertainty, Cambridge University Press
成績評価の方法と基準	ゼミでの発表、質問、討論を勘案して総合的に評価する。
その他	
教員連絡先	本館5階大角研究室

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 島田 章

課題テーマ	マクロ経済学の続きを勉強すること。
内容と方法	<p>平成29年度のマクロ経済学Ⅰ・マクロ経済学の講義で使った教科書の「第5章 労働市場」と「第6章 総需要・総供給（AD-AS）分析」を中心に演習形式（レポーターが担当部分を報告し、全員で討論する方法）で勉強すること。</p> <p>講義では有効需要の原理を仮定したマクロ経済での国内所得の決定を勉強しましたが、この基礎ゼミはその先の有効需要の原理を仮定しないマクロ経済での国内所得の決定を勉強します。異時点間の相互依存関係を含むマクロ経済の分析は、この基礎ゼミで勉強する内容に続く内容です。</p>
到達目標	雇用量と賃金率の決定、総需要曲線、総供給曲線、古典派とケインズ派のマクロ経済モデルなどを理解すること（人に説明し、人からの質問に答えられるようになること）。
テキスト	高橋知也著、『私大文系のマクロ経済学』、中央経済社刊。
成績評価の方法と基準	報告、討論が50パーセント、筆記レポートまたは筆記試験が50パーセント。
その他	
教員連絡先	連絡がある場合はメールを送ってください。当方のアドレスは shimada@nagasaki-u.ac.jp です。メールを送る際は件名に「平成30年度基礎ゼミ履修者の誰々（送信者氏名）」で、要件は何々」と書いてください。

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 高木かおる

課題テーマ	グループ学習を通じたコミュニケーション能力の育成
内容と方法	2～8名のグループ編成による各種のグループ学習を通じてコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。 具体的には ・グループディスカッション（与えられたテーマについてグループ内で討論し結論を導き出す） ・ディベート（与えられたテーマについてグループ間で肯定・否定の立場から討論、質疑を行う） ・グループワーク（与えられたまたは自分たちで選んだテーマについて調べ検討した結果を発表する） などを行います。さまざまなテーマを取り上げます。
到達目標	・討論に積極的に参加し、自分の考えを述べかつ他の意見を理解することができる。 ・グループによる調査や討論による成果を、スピーチやプレゼンテーションにより適切に発表することができる。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
成績評価の方法と基準	毎回の授業において、十分な準備を行い授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、討論の際に自分の考えを述べかつ他の意見を理解しようとしているか、他のグループの討論や成果から自ら学ぼうとしているか、グループの共同または分担作業や成果発表に貢献できているかなどの観点から成績評価します。
その他	情報検索やプレゼンテーション資料作成等のために、ネット接続およびパワーポイントを使用できる準備が必要です。また LACS を利用します。
教員連絡先	メールアドレス： takaki-k の後ろに @nagasaki-u.ac.jp メール送付の際は「件名」に基礎ゼミに関する内容であること、または送信者の氏名等を明記してください。 研究室：東南アジア研究所 2階 213号室

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 千野 厚

課題テーマ	金融市場の存在意義・役割を理解する
内容と方法	<p>内容：</p> <p>本ゼミでは、金融市場の存在意義・役割を、初歩的な金融のテキストを用いながら、ゼミ参加者の発表等を通じて理解していく。また、国内外の経済新聞の記事なども用いながら、現実金融市場で起こっている事象とテキストの内容を関連付けていく。</p> <p>方法：</p> <p>基本的には、毎回のゼミにおいて、テキスト内の指定範囲または新聞の関連記事等に関して、3名程度のグループがプレゼンテーションを行う。継続的な課題報告をゼミを通じて行うことにより、発表者およびその他ゼミ参加者の、論理的思考力、分析力、判断能力、プレゼンテーション能力等を養成していく。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none">① 金融市場に関する基礎的な知識を習得する。② 金融関係のニュースや新聞記事が、経済学の考え方に沿って正しく理解できるようになる。③ 自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。
テキスト	レクチャー&エクササイズ金融論 森澤龍也著 新世社 初版(2015年)
成績評価の方法と基準	ゼミでのグループ報告、課題への取り組み、ゼミ中の議論に対する貢献度などを総合して評価する。
その他	特に、株式市場などを含む金融市場全般に興味のある学生を歓迎する。ゼミの時間以外にも、ゼミにおける報告の準備に時間をかけて取り組む必要がある。
教員連絡先	E-mail: achino@nagasaki-u.ac.jp

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 中西 善信

課題テーマ	行動分析学マネジメントの実践
内容と方法	<p>本ゼミでは、行動分析学*の考え方を組織マネジメントに応用した、「行動分析学マネジメント」の考え方、並びに、この考え方に基づいた行動を習得することを目指す。</p> <p>ゼミは、テキストの輪読（発表者によるプレゼンテーションと、参加者全員によるディスカッション）を通じて行う。発表者は、あらかじめパワーポイントで発表資料を作成し、当該資料を使用してプレゼンテーションを行うことが求められる。また、ゼミの総括として、レポートの作成・提出を課す。</p> <p>なお、参加者は毎回、各人で予習の上、テキスト及びノート PC を持参すること。</p> <p>*行動分析学： 心理学の一派。環境を操作することで行動がどの程度変化したかを記述することによって、行動の「原理」や「法則」を導き出すことを目指す。これにより、行動の予測と制御に向けた手がかりを得ることが可能となる。組織内において望まれる行動の形成にも応用されている。</p>
到達目標	行動分析学の考え方を日常生活に応用し、適切な集団生活が送れるようになることをめざす。
テキスト	舞田竜宣・杉山尚子（2008）『行動分析学マネジメント： 人と組織を変える方法論』 日本経済新聞出版社
成績評価の方法と基準	ゼミへの取り組み状況（プレゼンテーション及びディスカッションへの参画度）に基づき総合的に判断する。
その他	主体的かつ濃密な参加が望まれる。
教員連絡先	E-mail : nakanishiy@nagasaki-u.ac.jp

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 長谷川 実也

課題テーマ	経済のグローバル化
内容と方法	<p>【内容】</p> <p>「経済のグローバル化が進展」とよく言われていますが、具体的にどのようなイメージを持っていますか？ 国際分業の進展による世界貿易の増大、その一方でトランプ政権下での保護主義的な動き、世界人口が増加している中での食料安全保障政策、偽ブランド品取締等の特許権・商標権等の知的財産保護、地球温暖化対策をはじめとする環境保護政策、資源・エネルギーのほとんどを海外に頼る日本の資源・エネルギー政策のあり方、日本のこれからの産業振興、といった国際社会の課題について考えていきます。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 毎回、テキストの1単元のテーマを取り上げます。2. ゼミ生には、テキストの該当箇所を予習してもらいます。3. ゼミ冒頭、予習でわからなかった点について教員が説明します。4. その後、グループ討議を行います。5. 数回、小レポートにまとめてもらいます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・国際経済のニュースが、身近に感じられるようになる・自分の考えを、わかりやすく説明し、議論できるようになる
テキスト	「私たちの国際経済（第3版）」（有斐閣ブックス）
成績評価の方法と基準	主体的・積極的なゼミへの参加態度、報告・小レポートを総合的に評価します。
その他	国際経済に関心を持ち、主体的に課題に取り組む意欲のある学生を歓迎します。
教員連絡先	E-mail : jitsuya.hasegawa@nagasaki-u.ac.jp 研究室：本館 6階 624号室

平成30年度基礎ゼミ演習指針

教員名：南森 茂太

課題テーマ	経済学は社会問題解決の糸口となるのか？
内容と方法	<p>【内容】</p> <p>テキストを用いて現在の社会問題を解決していくために経済学がどの程度有効なのかを考える。</p> <p>【方法】</p> <p>ゼミではグループ学習を行う。具体的には、ゼミ初回に参加者を3つのグループに分け、各グループが担当するテキストの章を決定する。各グループは決められた章について担当日にパワーポイントを用いてプレゼンテーションをおこない、他のゼミ参加者はその報告内容について質疑をおこなうものとする。</p> <p>なお、利用するテキストを十分に理解するためには経済学史に関する知識が必要となるが、この科目は本学では開講されていないために、ゼミ担当教員が必要に応じてこの知識についての解説をおこなう。</p>
到達目標	<p>①現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身に付けている。</p> <p>②自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。</p> <p>③現代経済社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。</p>
テキスト	猪木武徳『経済学に何ができるか』中公新書、2012年。
成績評価の方法と基準	課題への取り組み方、主体的・積極的なゼミへの参加態度、報告やプレゼンテーションをもとに総合的に判断する。
その他	
教員連絡先	shigeta373mori@nagasaki-u.ac.jp